

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390101402		
法人名	医療法人 室原会		
事業所名	グループホーム きくなん		
所在地	熊本市北区鶴羽田3丁目11番15号		
自己評価作成日	平成27年7月11日	評価結果市町村受理日	平成27年9月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」		
所在地	熊本県熊本市中央区水前寺6丁目41—5		
訪問調査日	平成27年8月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所の理念に基づき、ご入居者様の行きたい場所、したい事を叶えるべく、その人らしく生活して頂けることをケアの中心におき、支援しています。  
また、体調管理面においても、バランスのよい食生活を基本とし、必要な時は隣接の連携病院で早急に対応してもらうよう体制も整えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体病院の院長でもある施設長は、地域貢献の意識が高く、利用者・家族の立場に立ったケアを職員に浸透させ、外部研修の参加を促すなど、職員の自己研鑽への意欲を高め、上質なサービス提供につながるように努めている。医療面では病院の全面的な支援が受けられる仕組みが作られ、家族の不安軽減が図られている。  
利用者の思いを聴き取り、ケアに反映させる為に、基準以上の職員を確保し、業務改善を図り、ゆっくり会話する時間を作るようにしている。家族の要望にも迅速、柔軟に対応して、家族の信頼を得ており、互いに協力し合う関係が築かれている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員が常に事業所理念を念頭におき、共通認識をもちケアの実践につなげている	理念に「私たちは家族です」を掲げ、本人・家族の立場に立った細やかな支援に努めている。施設長は、理念に込められた目標やケアのあり方を、職員採用時に丁寧に説明し、また、折に触れて「ケアに迷ったら理念に立ち返ろう」と指導しており、全職員の意識統一が図られている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の清掃活動へ参加したり、ホーム菜園で収穫した野菜を近隣へおすそ分けすることで、なじみの関係を作りつつある	近隣住民との日々の挨拶や日常会話を積極的に交わしており、隣家との境界スペースの草取りも職員が自主的に行うなど、地域とのつながりを深めることの重要性を全職員が自覚し、馴染みの関係作りに努力していることが伺えた。地域の一斉清掃には利用者を伴って参加。ホーム菜園の作物を利用者と一緒に近隣に配るなど、利用者が住民と触れ合う機会も作られている。歌や踊り、読み聞かせ等のボランティアの訪問が月に数回見られ、ボランティアとも馴染みの関係が築かれつつある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポートリーダー取得に際しての実習受け入れを行っている。また会議などにも参加し、認知症の方の支援方法を要請があれば、発信していく体制は整えている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回会議を行っているが、活動状況をスライドや動画など分かりやすく映像で提示し、意見交換を行い、サービス向上に努めている	運営推進会議には自治会長や民生委員、地域包括支援センターの他、半数以上の家族の参加がほぼ毎回見られ、家族同士の交流の機会にもなっている。利用者の暮らしぶりなどは動画やスライドを使って紹介しており、参加者にホームの理解が深まり、相互の協力関係が築かれている。会議録には、参加者の意見交換内容が詳しく記録されており、質問に丁寧に回答し、意見・提案には速やかに検討し、改善に取り組んでいる様子が読み取れた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に地域包括支援センターより出席して頂き、意見や助言を頂いている。また、毎月市の介護相談員にも訪問に来て頂いており、意見交換を行っている	地域包括支援センターから、地域の認知症の人の状況や支援策等の情報を得、ホームの外出支援についての助言をもらうなど、互いに協力しあう関係を築いている。市の介護相談員とも協力関係を築き、利用者の要望等を教えてもらい、サービス向上につなげている。「楽器の音を聞きたい」という要望があることを知り、施設長が仲間を募ってバンド演奏会を開き、好評を得ている。「野菜が固い」の声には、速やかに病院の栄養士と相談し、改善が図られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法令遵守勉強会などを通し、全職員が身体拘束をしないケアを心がけている	本人・家族の立場に立ったケアを目指す過程で、利用者を尊重する意識が職員に浸透し、拘束をしないケアが実践されている。「バスに乗って家に帰りたい」という利用者の為に「ホームの玄関前に模擬のバス停(時刻表)を置き、バスを待つ間に気分転換を図ってはどうか」との職員の提案があるなど、利用者の欲求に沿いながら、心の安定を図る方法が検討されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会に参加し、全職員で学んだ事をふり返し、現状のケアはどうかと話し合いを持ち、虐待防止の徹底に努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の研修会に参加し、勉強会を行っている。今後入居者様に成年後見制度など必要であれば活用していきたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や改定前には必ず十分な説明を行い、随時質問もして頂ける様伝えている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や来所時に家族の意見や介護相談員面談にての入所者の要望を聞いている。また意見箱を玄関に設置し、改善点があれば早急に対応するように努めている	運営推進会議に参加する家族が多く、会議で「意見・要望は遠慮なく言って欲しい」と呼びかけている。家族来訪時はコミュニケーションに努め、気軽に要望を言える雰囲気作りに努めている。遠方に住む家族とは電話やメールで連絡しあい、要望を聞き取るなど、熱心な働きかけにより家族との信頼関係が築かれ、協力し合う関係になっている。家族の一方的な要望も、その心情を汲んでケアに取り入れるが、経過観察し、本人にとって負担になっていないか、最善のケアであるかを検討するようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1度ミーティングを行い、職員同士の意見交換の場を設けている。必要時は早急に対応し、業務改善に反映させている	上司・職員間の関係が良好で、意見が言いやすい雰囲気が作られている。施設長はホームに毎日訪れ、職員とのコミュニケーションを図っている。管理者は、職員の意見を尊重し、業務改善やケア内容等全員で話し合っで決めるようにしている。夜勤帯の業務見直しの職員提案に、すぐに話し合いの時間を設け、改善が図られるなど、迅速な対応が行われている。職員は基準を超える8名を確保し、全職員を正規雇用として採用。外部研修にも全員が毎年参加できるようにするなど、職員が意欲を持って生き生きと働くことができる環境が作られている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	等級制度を導入し、資格取得で昇給もある。また職員それぞれの得意分野を伸ばせるよう役割を持たせている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員を研修などに参加させる事で、各々が知識技術を深く学び、研修会で学んだ事を話し合い、共有出来る場の環境を作り、業務に反映させている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	隣接病院職員との交流、緊急時などの連携を行っている。また地域交流会に参加し、他施設や包括支援センターとの連携を通し質の向上に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に本人や家族と面談し、不安な点や要望・希望を把握し、傾聴・共感することで本人の安心につながるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	上記同様じっくり話を聞き、不安解消に努めている。また、遠方に住む家族とのメールにての相談や手紙にての相談にも対応し、良好な関係作りに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が何を必要としているか、本人と家族のニーズにずれがないかなど検討し、支援を進める前に面談や連絡等を行い、「その時」必要な支援の見極めに努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	畑仕事や家事など私たちの知らない方法、場面など様々な発見があり、互いに向上していけるような関係作りに努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事には家族の参加を呼びかけ、家族の協力のもと、一緒に余暇生活をサポートする関係を築いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも面会や外泊出来る体制を整えている。本人馴染みの場所に行ったり、墓参りなど要望があれば行っている	職員は笑顔で来訪者を迎え入れ、話を傾聴するゆとりも見られ、家族が訪問しやすい雰囲気を作られている。週に数回訪れる家族など、家族の面会が多く、利用者との絆が強く結ばれていることが伺われた。訪問時は本人の行きたい所に一緒に外出する家族も多い。本人を伴って外出することが困難な家族の場合は、墓参り等本人の要望に沿って、馴染みの場所への外出支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を職員全員が周知し、席の位置も配慮している。また全員で参加できる歌やゲームなどを行ったり、お茶を飲みながらゆっくり皆で会話する時間を設けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去者の施設や病院など、現入居者と共に面会に行ったり、サービス利用終了後も円滑な関係を築いている。また退去家族より相談などあれば、いつでも対応できる体制を整えている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中でじっくり居室で話を聞くよう努めている。家族にも情報収集を行い、本人本位になるよう検討している	おやつタイムは職員もゆっくり座って利用者とは話し、思いを聴くように心がけている。今年から、利用者一人ひとりに担当職員を決め、爪切り等の細やかなケアの漏れがないようにすると共に、利用者の思いを深く把握し、ケアに反映させる取り組みに力を入れている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人との会話や入居前の介護支援専門員からの情報などにより、本人がこれまで生きて来られた背景を把握し、家族や知人などから細かな情報を収集している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活リズムや細かな変化を記録し、全職員が共通認識のもと現状の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者、家族の意向を聞きつつ受け持ち制を導入し、月に1度職員間でカンファレンスを開き、現状に即したプランを作成している	利用者・家族の意向をじっくりと聞き取り、介護計画に反映させている。毎月のカンファレンスで、利用者全員のケアを検討し、現状に即したケアを行っているか確認している。管理者が主体となって介護計画を作成しているが、施設長には利用者の様子を日々報告、相談し、助言を得ており、担当職員からの情報もアセスメントに活用するなど、職員全員で介護計画作成に取り組んでいる。介護計画の変更がある場合は、家族説明を丁寧に行い、同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日個人経過録を記録し、また申し送りノートを活用。全職員が把握実践できるようにし、介護計画見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の希望により、個別リハビリや訪問マッサージを取り入れ、柔軟に対応できるよう取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の清掃活動への参加や保育園の訪問、またボランティア慰問による交流を行っており、毎日の暮らしを楽しんで頂けるよう支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診や通院は本人や家族の希望に応じて対応している。必要時は情報提供書など作成し、他病院受診など、適切な医療が受けられるように支援している	かかりつけ医は本人・家族の自由な選択を尊重しているが、母体病院の院長である施設長が毎日ホームを訪れ、利用者の状態を把握していることや、急変時の対応が迅速であることなどから、家族全員が母体病院をかかりつけ医に希望している。受診時は、外来看護師と連携し、待ち時間の短縮が図られ、受付の職員や外来看護師に利用者の見守りを協力してもらえる関係が築かれている。夜間の急変時は、母体病院に連絡し、病院での対応が円滑に行われるように取り決めており、職員の安心感にもつながっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤職員として看護師を配置。介護職員は常に健康状態を気にかけて観察を行い、異常発見時は医師、看護師へ報告し適切な受診、看護が受けられるよう支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	施設長が母体病院の医師であり、病院関係者とも常に連携がとれている。また施設長指揮の下、他病院への入退院も円滑に行い、利用者・家族の安心に努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの方針を定めており、契約時同意を得ている。今後も重度化や終末期に向けた対応方針を法人の医療機関や家族と連携をとりながら、チーム支援に取り組みたい	重度化した場合や終末期のあり方については、契約時にホームの方針を説明し、変化がある度に話し合いを重ねていくことを伝えている。開設から1年半余り、これまでに終末期を迎えた利用者はいないが、本人・家族の希望に沿って看取りまで支援する方針であり、訪問診療や訪問看護の支援体制が既に作られている。吸引器も設置し、緊急事態に備えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを作成しており、年一回救急蘇生法、AEDの勉強会を受け、常に職員間でマニュアルを見直し確認するなど急変時に備えている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防訓練を計画実施し、消防署より指導頂いている。隣接法人の病院よりの応援体制や近隣住民にも協力体制を築いている	昼・夜間を想定した避難訓練を消防署立ち合いで年2回実施している。消防署職員に避難方法等について積極的に質問し、より安全な避難方法を確認したり、利用者を避難させる時、ルームネームを抜き取り、ポケットに入れておくと、避難場所での確認に利用できるとの助言に、すぐにルームネームを抜き取り易く工夫したりと、熱心な取り組みが見られた。夜間の避難は職員一人での対応になる為、隣接の母体病院からの応援体制が作られている他、近隣住民の協力も得られるように働きかけ、今年5月の訓練は住民参加の下、実施されている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員1人ひとりが自覚を持ち、利用者に合わせて言葉使いや対応を心がけている。法令遵守の研修を行うことにより、日々の対応を見直すようにも努めている	利用者一人ひとりの特性を考慮した言葉かけや対応によって、利用者は伸び伸びと自分らしい暮らしができていように見受けられた。家事能力が高い人には、掃除や配膳準備など腕を振るう機会が用意され、職員の優しい見守りの中で誇りを失うことなく過ごされている。裁縫が得意な人には、衣服の補修をお願いしたり、絵や書道が上手な人の作品を玄関や廊下に掲示したりと、一人ひとりの得意分野を活かす支援が随所に見られた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の言動や表情に気を配り、声掛けや傾聴によりゆっくり思いを確認し、自己決定できるよう働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしく過ごして頂ける様に、希望や訴えがあれば傾聴し希望に添えるよう柔軟な対応を心がけている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の好みや季節に合わせた衣類選び、また毎朝の整容(化粧)ができるよう支援している。訪問理美容を利用し整髪希望にも添えるようにしている		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付け・片付けなど役割を持ち、出来る事をして頂いている。また、利用者の好みのもや状態に合わせた食事提供ができるよう工夫し、楽しく食事をして頂いている	献立作成や調理は母体病院で行い、ホームでは利用者の状態に合わせて、食べやすい大きさにカットし、食欲をそそる盛り付けを工夫している。病院の栄養士が嗜好の聞き取りに訪れ、献立に反映させるように努めている。「ウナギを食べたい」という利用者には、家族と相談しウナギ弁当を外部に注文するなど、個別の要望にも柔軟に対応している。敬老の日や花見等では、ほぼ全員で外出に出かけたり、誕生日には本人の希望を聞き出し、家族との外出できるように調整したりと、利用者に喜んでもらえる支援が行われている。	2つのテーブルに分かれて食事しており、1つのテーブルには職員が食事介助に着いているが、もう1つのテーブルは利用者だけとなっている。職員が着いているテーブルは和やかな雰囲気だが、もう1つのテーブルは、その日の状態によっては、居心地が悪そうな表情の利用者が見受けられた。利用者の個性や相性を配慮して席次が決められてはいるが、2つのテーブルのどちらにも職員が着くなど、工夫が望まれる。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表により食事量・水分量の把握が出来ている。摂取量が少ない利用者へは声かけや、好みのものが提供できるよう支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声かけし自力で難しい方は職員が対応し、利用者の力に応じたケアをしている。義歯洗浄剤の使用や訪問歯科の利用など、その方に合った支援をしている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表による排泄のパターンを把握し、声かけや誘導にて、利用者の状態に合わせた自立支援をしている。また、便意のサインを確認、トイレにも分かりやすく表示し、不安の軽減に努めている	2名の利用者は念の為にトリハビリパンツ着用だが、トイレでの排泄ができている。時折失禁が見られる人も、自分で着替えることができるなど、排泄の自立度は高い。トイレ手前の洗面台で排尿する利用者が見られ、職員で話し合い、トイレに「ここはトイレです」と張り紙をして改善が見られている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	こまめな水分摂取の促しや利用者や家族の希望によりヨーグルトや食物繊維の入った好みのもので自然排便を促している。また病院と連携をとり緩下剤の処方にて便秘の予防に取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	隔日入浴にしているが、入浴されるタイミングなどその方に合わせた入浴を支援している。職員と事前に洋服や入浴準備をしたり、楽しみを持って頂く工夫をしている	基本的に月・水・金を入浴日としているが、ホーム菜園の作業で汗をかいたときなどは、臨機応変にシャワー浴を行っている。入浴拒否の人へは、時間を置いて誘ったり、声掛けの方法を変えたりと工夫し、現在は拒否する人は見られない。母体病院の敷地に足湯が設置されており、利用者も足湯を楽しんでいる。外来患者や保育園児も足湯に訪れており、会話が弾み、仲良くなった園児がホームに遊びに来るなどの楽しみも増えている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ソファーや自室にて自由に過ごして頂くよう支援している。また長時間椅子座位にならない様、本人の状態に合わせ臥床時間を提供している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルにて職員も内容把握出来ている。チェック表をもとに職員間でのダブルチェック、与薬の際も確認し、誤薬防止に努める。服用後の状態変化もかかりつけ医へ相談、対応出来ている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除や家事、裁縫や書道など一人ひとりの力を活かした役割が出来ている。また歌番組や歌を楽しまれるなど、日々の気分転換にもなっている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の散歩を楽しまれたり本人の希望をお尋ねし、墓参りや買い物へ出かけられるように支援している。またご家族にも協力して頂き、外出・外泊も出来ている	毎日の散歩や、車で数名ずつ買い物に出かけたりと、日常的な外出の機会が増し、花見や高橋稲荷のこいのぼり見学等、季節を感じ取る外出も増えている。今年4月には、母体病院から2台の車を借り、雲仙への日帰り旅行を実施。家族と途中で合流し、利用者・家族にとって楽しい1日となった。個別の外出希望も、家族の協力が得られるように働きかけたり、職員が伴って出かけたりと、希望に沿う支援が行われている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人や家族の希望により数名の利用者がお金を所持しておられ、自由に使えるよう支援している。また外出、行事参加時は家族へも協力して頂き、お金を使う機会を設けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人よりの申し出があった時には応じている。手紙に関しては希望がほとんどなく、今後支援していきたい		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花や置物、手作りカレンダーや壁新聞で居心地の良い空間作りに努めている。また室温や音にも気を配り、窓からはグリーンカーテンを眺められ、季節感もとりにいれている	落ち着いた色彩の内装に、窓からの太陽光が柔らかに入り、穏やかな雰囲気のリビング。ゆったりとした、座り心地の良いソファに利用者・職員が集まり、眼前のテレビに映る、職員の子供のバレエ発表会の録画に見入る様子は、家族のように思われた。仲良し2人の利用者が自分たちの指定席に座り、楽し気に歓談する姿も見られた。壁面には行事や外出時の写真が掲示され、家族の目を楽しませてくれている。廊下の両端には木製ベンチが作り付けてあり、利用者数人でのおんびり過ごすことができるようになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファースペースやウッドデッキ、廊下のベンチ等気に入った場所や気の合った利用者同士で自由に過ごして頂いている。また仲のよい利用者同士で過ごせるよう配慮している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	慣れ親しんだ物を持参して頂き、居心地よく過ごせる工夫をしている。また家族写真や飾りつけなどで過ごしやすい空間作りに努めている	見慣れた部屋の雰囲気を継続することの重要性を家族に説明し、協力を促しており、居室には使い慣れた家具やテレビ等の持ち込みが多く見られた。好みの小物類でいっぱいの子供の部屋、家族写真が満載の部屋、中には小さな冷蔵庫の持ち込みもあり、利用者一人ひとりの個性が感じられる部屋作りが行われている。誕生日のプレゼントに渡した、職員の優しいコメントが掲示されており、心温まる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室に花のイラストと名前表示してあり、また利用者本人が分かりやすいような飾りやトイレ内部にも表示をすること、建物内部の安全な環境作りなど、自立した生活が送れる工夫をしている		